

飛瀬 稔 議員



Q この四月から始まった後期高齢者医療制度はその呼称からしてお年寄りを厄介者扱いのようなネーミングであり冷たく寂しい感じがする。

約千三百人の高齢者をこれまでの国保や子供の扶養から切り離し料金は年金から天引きという一方的な制度である。今になつて部分的な手直しを始めたが、制度変更には議決から通達帳票の作り替え等莫大な血税の投入が必要となる。拙速で出来ないの新法律は即刻凍結し、根本的には全面廃止すべきだ。村長と担当課長の所見を伺いたい。

A **村長** 本制度は、現役世代と高齢者の負担を明確にするという趣旨で発足したが、

苦情や質問が多くあつたため、単位老人クラブごとに説明会を開催し、制度の趣旨、必要性を丁寧な説明し、ご理解をいただいた。今後は、県や広域連合等の意見を聞いて制度の円滑な運営を図るため高齢者の置かれている状況を十分配慮していく必要があると思つている。

A **健康福祉課長** 本制度の対応と現状については、

村長も説明されたが、三月から四月にかけて単位老人クラブ毎に説明会を行い、その中で保険料のこど、どのような医療が受けられるか、健診は受けられるのか、など多くの苦情や質問があつたが、制度の趣旨・必要性などを一つ一つ説明し理解して頂いた。

Q **夫々**に答弁を頂いたが、本議場内の該当者である

村長、議長は今も現役で収入もあり負担はこたえる程でもないだろうが天引き等の実感を村長に聞きたい。医療費等の健全運営は当然必要であるが、この悪法は一旦廃止して内容をよく練り直して再スタートすべき。その為にも地方の声、現場の声をお上に届けていた、いただきたい。

A **村長** 給料はたくさん頂いておりませうけど、なかなか私も非常に厳しい毎日を送つており、したがつてこの年金の仕組みについては、当事者の声と申しますか、充分把握しているつもりであります。

A **健康福祉課長** 政府与党における本年度及び来

年度の保険料均等割、所得割の負担軽減策が講じられたが、これについても経過的な措置であり今後、高齢者の方々より制度についての意見や苦情があれば国や県に対して要望していきたい。

Q 近年のマイカー普及や少子化に伴い鉄道経営は厳

しさを増すばかり。一方、原油高騰や枯渇の不安から大量輸送手段の必要性が叫ばれるが、客は増えないこの矛盾。問題を含みながら国県の支援で実施されたDMV再実験の結果と導入への見通しについて報告を願いたい。

A **企画課長** 南阿蘇地域にDMV

導入を将来の目標に見据え、3月20日から3日間、一日4便、延べ12便が運行され、公募された一般モニターをはじめ1

93名が試乗し、乗り心地をはじめとした印象や活用方策についてアンケート調査が実施され、技術面、安全性の方策と課題についても調査がなされた。

実証実験走行では、いずれのモニターも8割以上が導入に関心を示し、南阿蘇のシンボルとして早期導入を期待しているという回答が最も多く、運行区間については全区間とし立野駅を起終点とする意見が大部分であつた。

次に、実験区間内での技術面、安全面では特段問題はなかつた。全区間導入を想定すれば、信号や踏切の自動化、鉄道法上によるトンネル火災対策や橋梁における強風対策など安全性の検証などが今後の大きな課題となつている。

中松駅



線路から道路へモードチェンジ